

Phoenix Club

平成23年
第9号

PHOENIX VIEW
SCENE 映す、風景



冬の朝7時、馬術部の部員たち。寒さや雨上がりの馬場をモノともせず朝練に励んだ後のご褒美は、空にかかった見事な虹でした。

贈る言葉

先輩から



にっ 新田 祐也さん
2006(平成18)年広島大学理学部生物科学科卒業。2008(平成20)年同大学院理学研究科生物科学専攻修了後、日本たばこ産業㈱に入社。その後、合併にともなうJTグループテーブルマーク㈱に。現在、食品開発センターで“酵母エキスの研究開発”という、酵母から旨み成分を取り出す研究を担当している。

サークルに入ろう。

社会は「プラスα」を求めている

生物の勉強をしたくて広大に入ったんですが、実は、企業が求めているのは専門だけじゃないことが、JTに入ってから分りました。プラスαが必要なんです。

例えば、私は研究センターで商品開発をしています。営業担当者と一緒に取引先に出かけてプレゼンテーションすることもあつるし、海外の見本市で外国人バイヤーに説明を求められることもある。研究職でも「専門だけでいい」なんて、通用しないんです。

私のプラスαは、サークルです。英語が苦手だったのでE S S (English Speaking Society) に入りました。「レベルの高い人のそばにいれば自分がレベルアップできる」というのが、私の持論なんです(笑)。英語の方は、レベルの高い人ばかりじゃなかったけど(笑)、それ以上の収穫がありました。

コミュニケーション力を磨け

英語は得意じゃないけど、イベント企画が得意だったから、E S Sでは中国地区連盟の代表を務めたんですよ。他の大学と一緒に、英語力のレベルアップや親睦のための企画を考える組織です。中でもメインは、年3回の英語キャンプ。大学の事情も、

英語力、モチベーションも異なる人間が大勢集まって、遊んだり勉強したりするんですから、そりゃ、大変です。これをまとめた経験は、私にとって大きな自信になりました。

今、企業人という立場から見ても、責任を持つて仕事をしている人はほとんど、学生時代に部活・サークル活動でもアルバイトでも、何か人と関わる活動をしていました。学生時代にコミュニケーション力を磨いてきた人間が、社会に出ても、いろいろな能力を集めて新しい価値を生み出すような仕事で成果を挙げられるのだと思いますね。

卒業後のつながり

E S Sは、卒業後も人的なつながりが強いんですよ。年末にはサークルの現役、OB・OGで忘年会をしていますし、年に数回、東京や東広島に集まってワイン会を開く。国内外で活躍しておられる先輩も多く、人的なネットワークを広げて自分の世界を広げるといふメリットもありますが、それだけじゃない。

卒業生が大学に行つて後輩たちに就活のアドバイスをしたり、私たちが、こうやって、東京から実家に帰る前に広島を回つて忘年会に顔を出す。E S Sという根っこですつと繋がっているような気がします。

フリージャーナリスト

堀川 恵子さん(1992年 総合科学部卒業)

焦らず、一所懸命。

NHKのE.T.V特集『死刑囚 永山則夫』獄中28年間の対話』で第47回ギャラクシー賞テレビ部門大賞受賞。同じく永山則夫を題材にした著作『死刑の基準』「永山裁判」が遺したもの』で第32回講談社ノンフィクション賞を受賞。今、注目のフリージャーナリスト、堀川恵子さんは、広島大学総合科学部の卒業生です。2月末にNHKで放送予定の『法務大臣の決断』の取材で忙しい時間を縫って、インタビューに応じてくださいました。



著作『死刑の基準〜永山裁判』が遺したもの〜。4人を射殺した死刑囚が遺した15,000通の手紙をもとに、その心の軌跡を追いつつながら、人が人を裁くことの難しさを追究した作品。

とにかく、精いっぱいやる。

学生時代はそれしかないでしょう。

テレビや出版の世界で仕事をしているので、「マスコミで仕事をするにはどうしたらいいか」とアドバイスを求められることがありますが、言いたいことは一つ。とにかく、いろんなことを経験してみる。学生時代にできることはそれしかないですね。

学生時代は、世の中のことなんてまだ何も分らない。自分に何ができるのか、自分は何をしたのか……今の学生さんもおんなじでしょう。何も分らないから、いろんなことをやってみる。何かつかめそうだったら、そこで一所懸命やる。それが、学生だと思っ



堀川恵子さんプロフィール

1992(平成4)年広島大学総合科学部外国語コースを卒業後、広島テレビ放送に入社。『ニッポンの筆 世界に挑む』『チンチン電車と女学生』など、制作した番組が高い評価を受ける。2004年退社し、フリーディレクターとしてドキュメンタリー番組を制作。2009年には著作が講談社ノンフィクション賞を受賞するなど、作家としても注目を集めている。3月には新刊『裁かれた命〜死刑囚から届いた手紙』(講談社)が発売される。

中途半端はダメ、とにかく、自分の精いっぱいやる。そこから、少しずつ自分の道が見えてくるんじゃないでしょうか。

卒業論文は取材レポート。

先生が背中を押してくださいました。

私の場合、一つのステップとなったのは卒業論文です。

テーマは『異文化間のコミュニケーション』だったんですが、私、留学生を中心に、広島で暮らす外国人に、広島での生活や、日本人に対する気持ちなどをインタビューして問題を分析することにしました。友だちに紹介してもらった留学生はもちろんですが、飛び込みで外国人のアパートのドアをたたいたこ

ともありました。まさに「取材」ですよ。これ、すごくない経験になりました。

当時の卒論は、文献を読んでまとめるのが普通だった。だから、審査会で、私の卒論に対して「これは論文ではない」という意見もあつたのですが、指導教官のゴールズベリ先生が、なんとか卒業させてくださった(笑)。

卒論に限らず、先生は「それはいけない」っておっしゃったことがないんですよ。「君が思ったようにやってみればいい」って、いつも背中を押してくださいました。感謝しています。それ以来、自分の足で歩いて取材すること

は、ジャーナリストとしての私の基本です。人に実際に会って話を聞き、自分の目と耳で確かめる。地道で、ネタにならないことも多いけど、いつか、必ず何かのカタチでプラスになります。「取材は裏切らない」んですよ。

衝撃的な映像に出会った。

それが転機だった。

テレビ局に入社して以来、ずっと映像で何かを伝えることを考えてきたわけですが、ある日、衝撃的な映像に出会ったんです。「エリックとエリックソン」……ハイチのストリートチルドレンを10年にわたって追ったNHKのドキュメンタリー番組です。その中の映像——猫の首にヒモが巻き付いてしまつて、必死で解こうとがんばるんだけど、どうにもならない。その様子を一分以上、ナレーションなしでずっと流している。抜け出したいけど抜け出せない、エリックたちの姿そのものと重なるんですね。頭を打たれたような気がしました。

「こんなカメラマンと一緒に仕事をしたい」と、テレビ局を辞めて、東京に行こうと決心しました。

当時、管理職になって現場の仕事から離れたフラストレーションもあつたと思うんです。1年間何とかガマンしたけど、やっぱり私は机の上だけで素材を集めて番組を組み立てるのは性に合わない。現場が合っているんだと思います。泥臭くても、休みがなくても、3



堀川恵子さんにインタビューする総合科学部後輩の森内さん(左)と村上さん(右)

Kでも、そこで呼吸していると、アドレナリンがワーツと出てきて、自分を動かしていく。そんな感覚から逃れられない。

今のうちにいっぱい失敗を。

そこから軸足が固まっていくな。

「ジャーナリスト」という仕事は難しい。自分が作った番組や本によって、時には、人の人生を傷つけることだってあるかもしれない。だから、いろいろなことを考え、それでも作らなければならぬという、「覚悟」というか、揺るがない軸が必要なんです。

揺るがない軸を持つには……なんて、エラそうなことは、言えない。私自身、常に揺れていますから。

ただ、ジャーナリストを志望する若い人に言いたいのは、「頭の中だけで考えて、軸を持つ」と焦るな」ということです。それよりも、今のうちに「失敗」をたくさんして、落ち込んだり苦しんだり泣いたりすること。その繰り返しの中で、人間はどうあるべきかと考えるようになり、自分なりの軸ができていくのだと思います。

傷つかないように、限られた友だちと付き合い、インターネットを相手にするだけの「半径5メートル」の生活からは、人間や社会を切る軸は、絶対に育ちませんよ。

堀川さんの広大生時代



PR大使で外国からのお客さまを平和公園に案内した。大学3年生の堀川さん。

高校時代にハードル選手として名を馳せた堀川さん。しかし、「自分が一流の選手になれるなんて思えなかったから」大学では陸上をスッパリとやめた。そのかわり、ESS、社交ダンス、家庭教師……と、さまざまなことにチャレンジしたという。

そんな経験の中で、やがて、映像の世界との接点を見つけた。それが、広島市のPR大使。広島市のさまざまな側面を広報するアルバイトだった。ここでテレビや新聞など報道の仕事に触れ、「世界が広がった」。それから、アナウンス養成講座に通い、志望をテレビ局に絞って勉強を始めた。「いろいろやって、失敗しながら何かをつかんでいく」——後輩たちへのアドバイスそのものの学生時代だったよ。

先輩インタビューを終えて

森内(総合科学部) 私もジャーナリストを目指しているということもあって、堀川さんのお話はすべて、ズシンと心に響くものでした。「なかなか他人の心に迫れない」と相談すると、「結局怖いことから逃げているんじゃない」と、自分の気弱な部分をズバリと指摘されてしまいました。何事も逃げずに直視する。ジャーナリストを目指すなら基本ですよ。どうすれば人と本気で向き合えるか——一所懸命、考えます。

村上(総合科学部) 私は、自分がしたいことは何か、なりたい自分は何のようなものかを見失っていて、それを探することに必死でした。でも、堀川さんは言われました。「自分の軸が定まらず思い悩むが、それでも猛進していく。人の評価より、大事なのは自分が満足すること」——自分の価値観や本当に大事にしたいことをもう一度、考えてみます。そして、堀川さんのように、したいことに恐れず挑戦しようと思います。

表紙「贈る言葉」取材を終えて

後藤(経済学部・前列向かって右端) 新田さんが、ESSで活動しておられた頃の姿勢を今も変わらず持ち続け、信念・情熱をもって仕事に取り組まれているのだということに強く感動しました。学生時代の友人は、会社や仕事は違っても、共通の思い出という、根っこでずっと繋がりが続くことができるんですよ。4月から私も社会人です。新田さんのように「新しい価値を生み出す」仕事をなるべく精進していきたいと思っ



2010年暮れの忘年会に集合したE.S.S.の卒業生&現役生。

福田(文学部・前列左端) 先輩方が、ESSというサークルに情熱を注ぎ、それを誇りに思っておられることが伝わってきました。この精神がずっと受け継がれているから、後輩もESSに惹かれるのだと思います。広島大学ESSと出会えて、みんなに出会えて、良かった。「何かに打ち込んだ経験があるから新しいことにも積極的になれる」と新田先輩は言われました。私も、こう言える社会人になりたいと思っ

第4回広島大学ホームカミングデー

2010(平成22)年11月6日(土)

3,500人を超える方々がご来場くださいました。
ありがとうございました。



学生チーム



ホール前の広場では、学生チームによる「おもてなし企画」が展開されました。

昔懐かしい飲み物や駄菓子、パンを販売する「おしゃべり喫茶」には、千田町界隈を取材・撮影したレポートパネルを展示。足を停めて「わあ、懐かしい!」と声をあげる人も多く、大好評でした。



サタケメモリアルホールロビーでは、文書館による恒例の「広島大学の歴史展」を開催。

ホームカミングデー恒例の学術講演は小泉武夫先生(東京農業大学名誉教授)の「食の冒険家が語る旅への誘い」。



サタケメモリアルホール



難波憲二名誉教授の指揮でステージと客席が一体になって『広島大学歌』の大合唱。



浅原利正学長
ごあいさつ



午後は、広島県出身の女優、東ちづるさんの文化講演「泣いて笑ってボランティア珍道中〜心豊かに自分らしく生きる」。

ホール前広場

広場ステージで繰り広げられる学生たちのパフォーマンスに、子どもたちも大喜び。



司会の財務・総務室 下田校友担当主幹が、学生チームの河田・祖一両メンバーを紹介。



学生会館レセプションホール



懇親会には学生チームも参加。先輩たちとの会話に、大先輩たちは学生時代にタイムスリップ。



大学祭

教育学部祭 E-Storm



大学祭、教育学部祭との併催も定着。東広島キャンパス全体に人があふれた1日でした。

いまどきクラブ・サークル①

●卒業生「1000円基金」
50年以上の歴史を持つ馬術部。卒業生による『清社』の会員数は160人に及びます。卒業生と在学生との絆は非常に強く、馬術大会の応援や新年会などの交流が連続と続いています。コーチとして後輩の指導にあたるのも卒業生。木内監督もその一人、平成元年入部のOBです。
「成績も大切ですが、それ以上に、部員たちの人間的な成長を大切にしたい。当馬術部での経験は、社会に出て必ずプラスになりますから」と、言葉に力が入ります。
4年前からは卒業生有志による「1000円基金」がスタート。馬の購入などの費用のために、月1000円を口座振替で積み立てるものです。卒業生の熱い気持ちで、馬術部の歴史を支えてきたのかもしれない。



●素晴らしい学生時代を過ごしてきた
男声コーラスの部員減少は、多くの大学共通の悩みだといえます。若者の趣味の多様化とか、男声合唱という特殊性とか、原因はさまざまあると言われていますが、少なくとも、記念演奏会で歌うOBたちを見ていると、「きっと、素晴らしい学生時代を過ごしてきたのだろう」と、うらやましく感じられます。
広大グリークラブ復活への道のりは簡単ではないでしょうが、学生時代のクラブ活動が50年間強く受け継がれてきていることや、卒業生たちが現在も大学の活動に関わっていることなど、クラブ活動の「真髄」は、ぜひ、伝えていきたいものです。



広島大学馬術部



1957(昭和32)年創部、54年の歴史を持ち、学生馬術界では幾多の優れた足跡を残してきたクラブ。

広島大学グリークラブOB



70歳代から20歳代まで、OBたちは現在も関東、関西、広島で練習や演奏活動を続けている。

●眠さにも、寒さにも負けない!
まだ薄暗い冬の早朝、雨上がりのぬかるんだ馬場を、馬が元気に駆け回っています。厩舎で馬の世話をする部員の姿も。「6時前には集合します」と、2年生の西尾さん。夏は5時集合。休日も交替で馬の世話をします。眠くても、寒くても、暗くても、遊びたくても、馬場にやってくる部員たち。何が、彼らを動かすのでしょうか。「馬が好きだから」と、部員は声を揃えます。広大に入學して初めて馬に乗ったという部員がほとんどですが、馬の可愛さに、世話が苦にならなくなるのだとか。「それに、カッコイイでしょう!」——確かに、人馬一体となつて障害を跳ぶ姿は、なんともカッコイイ! しかも、広大馬術部は強い!! 10年間で8回も中国四国学生馬術大会で総合優勝を果たしているのです。

●部復活を期す先輩たち
1月、広島市のアステールプラザで「広島大学グリークラブ創立50周年記念演奏会」が開催されました。関東、関西など全国各地から集まったOBは80人以上。「広島大学歌」など約30曲を歌い、満員の聴衆からは大きな拍手が贈られました。
広島大学グリークラブの発足は1960(昭和35)年。4人の男子学生が結成したカルテットがスタートでした。全日本合唱コンクールで銅賞を受賞するなど、高い評価を受け、部員が100人近く在籍したこともありました。しかし、最近では慢性的な部員不足で、ついには2008(平成20)年、部としての活動は休止に追い込まれました。
しかし、復活を願うOBたちは諦めません。入学式やホームカミングデーで演奏を続け、男声コーラスの美しさをアピール。「歌ってみたい」という学生のために、新入部員受入体制を整えています。

話題の広大

広島大学発のトピックを、ちょっとくわしく。発信者に直接取材してご紹介するコーナーです。

生物と数学とロボティクスのマッチング。イグ・ノーベル賞2回、小林教授の発想力。

「粘菌が交通ネットワークを設計する」という映像をご覧になった方も多いはず。原始的な単細胞生物が、首都圏の主要ポイントを結ぶネットワークを描き出したと話題を呼びました。



この研究で中心的な役割を果たしたのは、理学研究科の小林亮教授。はこだて未来大学の中垣俊之教授とともに粘菌の研究に取り組み、2008年に続いて2010年度のイグ・ノーベル賞を受賞しました。

イグ・ノーベル賞は「人々を笑わせ、そして考えさせてくれる研究」に対して贈られるもの。とはいえ、研究自体は大真面目。小林教授も応用数学の研究者です。

研究に使用したのは「モジホコリ」という粘菌の一種。単細胞ながらいくらかでも大きくなる不思議な生き物で、栄養を求めて広がりながらネットワークをつくりだす。このような粘菌の行動原理を探り、いろいろな問題に活かそうというのが、この研究です。

「人間は目で見て脳で考え、筋肉で動く。粘菌は全体でやる。そのしくみは情報処理のヒントになります」

これはロボットの制御にも応用できるとか。

「粘菌はそうやって、何億年も生きてきた。存在自体が“知恵”ですよ」——小林教授の発想は、まさにイグ・ノーベル賞級です。



大学生だけに教えるのはもったいない、『大学新生に薦める101冊の本』。

広島大学の約50人の先生たちが101冊を選びました。推薦の基準は、「現代の教養」の源泉となる力を育てるかどうかということ。これが、『大学新生に薦める101冊の本』です。今年も新学期になると広大生協にズラリとならぶことでしょう。

「ところが、岩波書店の編集さんによると、大学生以外の方からの反応が多いんだそうです」と、101冊の本委員会の委員長を務めた総合科学研究科の日下部眞一准教授が、意外な話を聞かせてくれました。なるほど、「信念に生きる」「科学が生む新しい人間観」「日本はどうなる?」といった項目分けには、人生経験を重ねた人こそ食いつきそうな気がします。



新版『大学新生に薦める101冊の本』(岩波書店) 1,400円

「本を買う人が少なくなったと言われますが、成長機会を逃しているようなもの。自分の考えや言葉を培っていくには、読書は最良の方法だと思います」

日下部准教授の言葉は、大学新生だけでなく、忙しさに紛れてゆっくり本を読むことを忘れた大人の心にも、ズキッと突き刺さります。

問題をつくれれば、意味が分かる！算数好きを育てるか、『モンサクン』。

2+3=5。簡単な算数です。でも、日常生活の中で「2足す3はいくつ?」と聞かれるケースは、ほとんどありません。「キャンディーを3つ持っていたら、友だちが2個くれた。わあ、5つになった」という言葉には、「+」や「=」の記号は出てこないけど、計算は必要です。



「式ではなく文章による問題として考えると、算数の意味が分かってくるでしょう。このように実生活の中で算数を使うシーンを想定して、自分で問題を作ってみる練習ソフトが『モンサクン』です」

開発者の工学研究科、平嶋宗教授の説明を聞きながら、パソコン画面を見ていくと、よく分かります。

昨年秋、広島大学附属小学校で実際に算数の授業に取り入れた実験では、何よりも子どもたちが大喜びしたとか。普段とはまったく異なる授業に、「算数が面白い!」と感じた子どもも多かったのではないのでしょうか。

平嶋教授は、教育分野へのコンピュータの応用を研究してきた人。「算数の答えは一つだけど、問題は無限にあります。コンピュータを使えば、問題の作成や判定が簡単にできるでしょう」

理数系の能力と言葉の関連性に関心が向きつつある今、興味深い研究です。



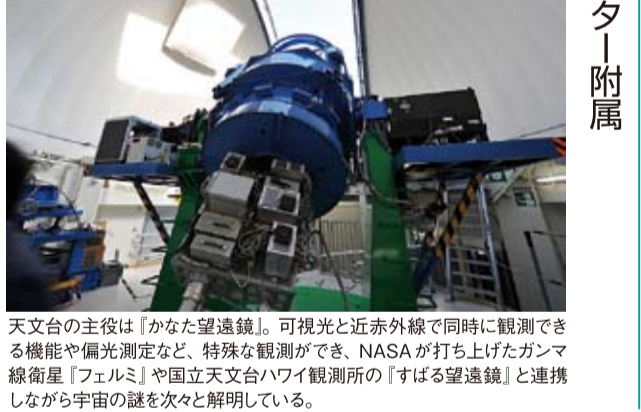
未知の高エネルギーを解明する。さて、これでは、これらを使ってどんな研究が行われているのでしょうか。「夜の空には無数の星が輝いていますが、星たちは永遠に静かに輝いているわけはありません。星が誕生する瞬間や消滅するときには、爆発やジェット」



「ガンマ線衛星による宇宙からの観測と、地上からの継続的な観測で宇宙の高エネルギー現象を立体的に解明する」という構想は「かなた望遠鏡」で大きく前進。そして、2008年には、広島大学が開発に重要な役割を担ったガンマ線衛星「フェルミ」がNASAから打ち上げられ、目指した観測体制が整いました。

宇宙を立体的に観測する体制。宇宙の謎に迫る。ビッグプロジェクトの重要な役割を担う観測基地。東広島天文台。宇宙科学センター附属。東広島天文台は、2004年に、小高い丘の上に建設された。「新発見による高エネルギー光子発見」「観測史上最も明るい超新星発見」……広島大学宇宙科学センターから、これまでの常識を変えるような研究成果が相次いでいます。

「研究の合間に見学も」。現在も、毎晩、理学研究科の院生たちがこの天文台に泊まり込んで、宇宙を観測しています。膨大な数の星を継続して観測し、わずかな変化も見逃さずキャッチするため。世界を驚かせる発見は、こうした地道な観測から生まれるのです。研究に支障のない範囲で、一般の方への天文台公開も行っています。年4回の「特別観望会」のほか、20名から40名の見学も可能。(ただし、2011年3月までは試験のため見学不可) 東広島にある宇宙へのアクセスポイント。ぜひ、足を運んでみてください。



天文台の主役は「かなた望遠鏡」。可視光と近赤外線と同時に観測できる機能や偏光測定など、特殊な観測ができ、NASAが打ち上げたガンマ線衛星「フェルミ」や国立天文台ハワイ観測所の「すばる望遠鏡」と連携しながら宇宙の謎を次々と解明している。

お詫び
◆Vol.8で西谷寛さんへの先輩インタビューに参加して下さった秋月さん(「えこ・べーじ」代表)の所属学部名が間違っていました。正しくは「文学部」です。お詫びして訂正します。

広島大学校友会 志より
Phoenix Club
『Phoenix Club』Vol.9
平成23(2011)年2月21日発行
(年2回発行予定)
編集・発行:広島大学校友会事務局
〒739-8514 東広島市鏡山一丁目7番1号
学生プラザ2階
TEL&FAX (082)424-6015
8:30~17:00(土・日・祝を除く)
E-mail ● sec@phoenix.hirodai.jp
Webサイト ● http://www.hiroshima-u.ac.jp/koyukai/

お礼
この1年、多くの皆さまからご寄付をいただきました。ありがとうございました。

- 学生への様々な支援
- 学生の課外活動の支援、エコバッグの支援
- 父母と大学との連携支援
- 入学式、学位記授与式における送迎バスの支援
- 校友同士の交流支援
- 第3回ホームカミングデー(広島大学創立60周年記念事業)の開催
- 入会促進費
- 校友会案内リーフレットの作成・配付、入会記念特典グッズの作成・配付、各種印刷物の発行等
- 校友会事務局経費
- 校友会事務局人件費(定時総会1回、理事会3回、幹事会1回)
- Web作成・管理等

■平成21年度 広島大学校友会支出報告

平成21年度における広島大学校友会の支出については、設立4年目ということもあり、年度による支出割合は一定となっております。平成21年度は広島大学創立60周年記念事業として第3回広島大学ホームカミングデーを行ったため、また、校友会組織の重点的強化を図るため、それぞれ「校友会間の交流事業」、「入会促進費」に力を入れました。

なお支出総額は41,918千円となっており、事業項目ごとの内訳については、下の円グラフ表のとおりとなっております。

また、平成21年度の収入を含めた詳細な収支状況については、広島大学校友会Webサイトに掲載しております。

■平成21年度 広島大学校友会事業報告

平成21年度における広島大学校友会の事業項目ごとの活動内容については、次のとおりとなっております。

● 校友会の情報交換と情報共有の促進

◆ 校友会だより第5,6,7号の発行、Webサイトより情報発信

● 校友会の情報交換と情報共有の促進 (7,137)

● 学生への様々な支援 (1,948)

● 父母と大学との連携支援 (1,708)

● 校友会間の交流支援 (20,345)

● 校友会事務局経費 (3,591)

● 入会促進費 (7,048)

● 校友会名簿整理費 (141)

(単位:千円)

校友会事務局から